主從心得草四編

上

口 9
1540
7

門口仁9
1.540
7

主人ハ扶持給金をつゝ[illegible]を恩ふけど。家来の骨折て奉公
するを忘ぶべし。又家来ハ主人より賜る所の扶持給金を
大恩と思ひ。主人の為めハ。一命をも捨んと思ふハ。家来の義
あり。世事をよく心得て。主従和合をそなへ[illegible]

平がな
繪入

主従心得草四編 上下

東京下谷金杉
壽福軒 述

弘化四未歳五月

主従心得草四編上目録

一 豪傑の賢士を用ひゆりの事 二丁ヨリ
一 山本勘助武田信玄公へ御目見の事 十六丁
一 甲州浪人組並名将勇士憤死の事 九三丁
一 百姓町人とゆへ共相應ふくらを者ハよき人ハ大入用の事
一 名馬ハ常ふあるとても伯樂ハ常ふあるき事 九五丁
一 用る時ハ虎の如く用ひざる時ハ鼠の如しの事 九六丁
一 梶原景時佐久間玄蕃明智光秀の事 九七丁
一 神ハ人の敬ひふよつて威を増小社神の事、 三十丁
一 天狗ゆゑ[illegible]鳶とゆつて子供ふ殺さるゝと[illegible]る事 三十

一 用ひらるべき時ハひとり其身をおさめ。無事を楽むべし 四十丁
一 鸞鳳ハらくまて鴟鴉の悪鳥ハ用ひらるゝといふ事 三十五丁
一 近習ふ人喰ふの犬あつて大害を致すといふ事 三十七丁
一 麒麟といふ秘蔵の茶碗をもらゝ事 四十丁
一 齊の宣王臣下を國家第一の宝とおもふ事 四十二丁
一 衛の懿公鶴を愛して亡びぬる事 四十五丁
紀州公寛仁大度の御計ひの事 四十六丁

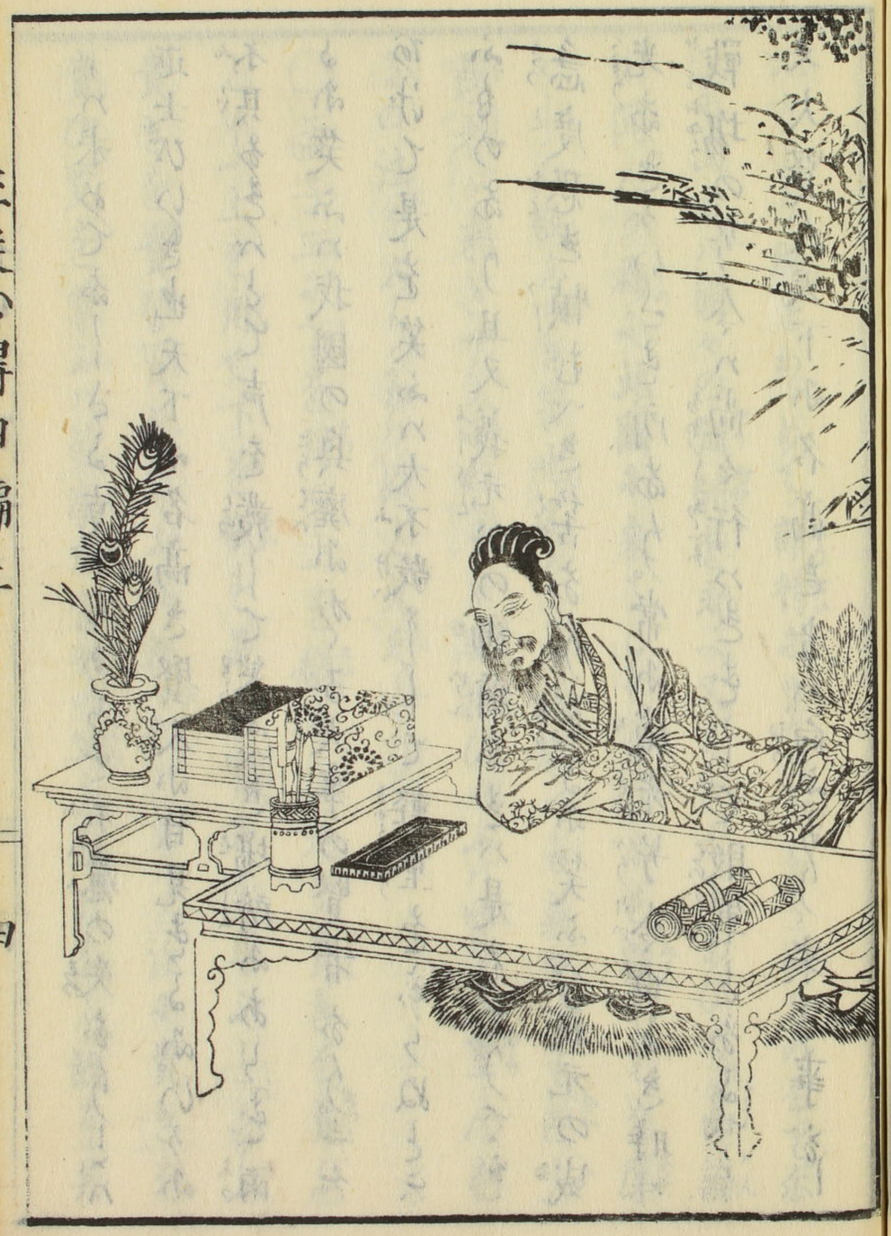
内閣文庫

正従心得草四編上

○私云庵原も勘助を獻國へ用ひらるべてん。今川家の大難儀と遠察して甲州へ送りしハ今川家へ大忠といふべし。かゆうある臣下ハ國の宝あり深くうやまふべし。義元候安房守ふ勘助ハ短を以て短をせむると仰せらるゝハ。尤のゆうあるとゝもも。中々さゆうの事ふあらぬ。大将たる者ハ賢士ふ目見の時ゝ愛相ゝ治國平天下の事を少くたづ孫ゑひ。軍法の奥儀ゝ追而来るべしと。あとあゝゝゝある色ゝ。試合等の事ハ追て家来どもより申上べし。然るふ初對面より座前

ふあいて比校をせずと仰せらるゝハ大将の御身柄ふあらむ。御目見の大事とりふハ人品骨柄を見て賢不賢を考へ言語ふるまひ不骨ありといへども。取所あり。又人品骨柄ハよけれども。取ざる所ありと是を深くかんがへんが為あり。人品骨柄よくて才智藝能あらバ夫ほどよきこゝハあ〳〵。若又人品骨柄あ〳〵き時ハ。ゆうある不具の人を人の賞美するゝ。能々ぬけりなる所あるふよりてありと考ふべ〳〵。北條氏康でも今川義元でも。唯不具の見ふくき事ばかりをいふて武術軍法の秀でたるをいとゞ。是何といふこゝろぞがゝ。人品骨柄の善悪ふハあるべからむ。才智藝能が大入用をふり。齊の晏子漢の韓信等も至つて不男との事雨もこゝも数千歳の今ふいたるまで賞美せり。是智藝勝れたるが故なり唐土ハ勿論日本人までも尊ミ敬ふ也。是人相の善悪ふよらむ。智藝ふよる事あり。又日本の秀吉公も猿面ふしてあまりよき人柄とハ思ひがたし。たゞもとゝも下賤よりあがりあげて日本の諸大名を切たゞへ。唐までせめあひ〳〵ハ神武以来唯一人ふあり。是人相の善悪ふよらむ智藝の勝れたる故ふ又勘助が不具を見て。近士等こゝらむ声を上て笑ひ

大公望八東海の渭水ニ
釣をたれ一不
諸葛孔明ハ卧龍崗
ニ隠者侍也



しハ。求めてゐ〳〵さる支ゐもあらぢ。不慮の失ありしハ
近上びいき也。天下ゐ名高き賢人ゐ目見まるゐ。いろゐ
不具あまてゞとて。声を發して笑ふべき場所ゐあらぢ。雨
るゐ笑ふハ我國の與廃ゐかゝる大事の賢者ゐ。声や
ゐのげて是を笑ふハ大不敬にして。軽重をわらぬとゝ
ふものゐ。且又義元公の御前ゐまバ是ぢゐ〳〵
急度恐ゐ慎むべき筈ゐ。ゐるゐ笑ふハ義元の威
光ゐきゞいさを所ゐ。常ゐ威光ゐ令ゐるゐ時ゐ
戦場の号令ハ尚々行ハきぢして敗軍とゐるべ〳〵
又大賢人。天下ゐ名高き者ハ。向ふより来る事ゐし

此方より腰をゐゞめて請待ゐゐうゐバゐらぬりのゐ。ゐ
るゐ山本ハ國々の強弱を考へ。又よき人ゐあひて。高論
ゐ聞んゞ為ゐ此國ゐ来ることゐ幸ひゐ。親しゝを厚
くして敬ふべき筈也。ゐるゐ氏康でも義元でも。匹夫
愚者ゞ来さやうゐ。ゐるく取扱ひゐふハ賢を重んぢ
るの法をゐりゐぬと見えゝり。
○孟子三ゐ下を用て上を敬もゐる是を貴きを貴ぶ
とゐふ上を用て下を敬も。是を賢きを尊ぶと云ふ。
貴きを貴び賢を尊ぶハ其義一也とゐり。注ゐ貴きを
貴び賢を尊ぶハ皆事理當然の宜しき所ゐる故ゐ其

義一ありといふ也。世の人ハ唯貴きを貴ぶ事なるまを
ちゐて賢を尊ぶ道をしらず。此故ゐ孟子是を弁ぜ
とあり。又孟子のいちく堯帝舜を饗して迭ひゐ
賓主とあるゐ。是天子ゐして匹夫を友とまるゐありと。
註に饗とハ食を受るの義也。堯ハ舜を客として
御馳走をまふ。又舜の館ゐ行て舜を主人として其
まうけ御馳走を受ゐふ。是互ひゐ客とゐり主人と
ゐりて朋友のごし。又大名旗本衆ゐり朋友を敬
まるの道あるのこゐあらず。天子といへども朋友を
敬まるの道ゐり天子として匹夫を友としてゐや

ありとせず。匹夫として天子を友とまるこゐも潛上無
礼とせず。堯舜ハ君臣父子より朋友の道ゐいたるま
で尽さるべきことゐあり。堯舜ハ人倫の至りなり。
斉舜ハ一切世界人民の手本也。何ぞも堯舜の通りゐ
そまるべ。あやまり多し。天の道ゐ叶ひて福徳を得る
也。天子として匹夫と賓主の礼あり。又九人の御男子
ハ舜ゐ仕へしめ二人の姫宮をめゐそせてうやまひ
ふ。大賢の徳ハ大ある者也。大聖の堯帝。舜ハ田夫野人
ゐまども。賢徳ある故ゐ。かく迄ゐ敬ひ給ふ。又九人の
御男子ハ御賓子ゐり。其賓子をさし置て舜ゐ天下

を譲りゆふ。賢人の重きこと是ゆて考るべし。然るふ北條でも今川でも愚夫無智の者が来さゆうゆ。ゆるくとりあ川うひゆふい賢人を重んぜる法をもりゆい ぬと見へたり。賢士忠信ハ國の大宝あり。急度敬ふ色し。大國の城主たりとゆへども。唐土の天子ふ比をもこゆ大ひふ劣る事あり。ふるゆふ大賢の君子を蠣末ふあゆ ひゆふい大ひある誤りあり。賢才の人ふくてハ御國ハ治りがたし。又他國と合戦しても。まけとあることゆ ひごの大災ひいあるべくらむ。大夏の親妻子眷属。何もたらぬ赤子まで。ころもゆうふあるゆ。まけいくさ

の大不吉也。是を深く辨へざるハ無智ふ相違あし。是ふ川て賢士を用ひてふちいくさとあるゆうゆ ゆあし。是又大上く吉の福徳を得て壽命長久の妙術也。武道初心集ふいそく。武士ハ勝負の心がけ第一あり。勝負ふまけたる時ハ官位も知行も家も身も直ふあくなるとあるべしとあり。こゆふ相違あし。誠ふ大切ある合戦を扣へあがら。男ぶりが見ふくいとて。豪傑の士を抱へざるハ無智の此上ふし。北條も今川も上杉謙信ふせめらゆて。武田家へ加勢をたのゆ しハ大恥あり。賢子をうゆまひ。不男不具のゆめくき

勘助を抱へたるハ少しも恥ふあらぬ。不男でも不具でも賢士あらばうのまふハ道あり。有智有眼の主君といふ迚し。北條も今川も大國であるあぐら。上杉ふせめらを て武田家へ加勢を頼むとハ大恥あり。智ある人考えあへ

○又義元公ハ己が臣下ふ庵原といふ。人の善悪をしる事明白ある者あり。その庵原が勘助ハ万人ふ勝をたる豪傑あり。是を隣國の敵へ抱へらをたる時ハ。入川家の難儀とおるべし。その時ゐわぞをかむとそあひあるべうらぬ。何とぞ勘助を御用ひなつて當

家の繁栄を起しゐべしと申し上たるぞ。義元頭をふりてこの様て勘むる事無用也。弓矢神も照覧あるぬ。ひのくさを者を用る事存じもよらぬと。いろ声ふてのゐへぞ。庵原も術計尽。ためいきばかりてゐりたきりる。義元公も庵原が人の善悪をしる明察あるをゐりゐわぬと見へあり。万支庵原ふ為らせおろぞ。御國ハ安泰あるべし。義元公も庵原がもくめふまろせ。勘助を用ひゐろぐ。尾州桶狭間の討死へあるべうらぐ。残念千万あり。我が家来庵原が賢智忠信を去りゐへぬ。況や山本の智勇ハ猶ゐりゐぬ筈也。亡國

の時節とそなへ。大将たる者は我國ふは何やうの智
藝の人あり。何處の國ふは何やうの賢人ありとも
弱べあらぬりのあり。山本勘助真田幸隆ふどの事を
よく考へて。かくし目付を以て動作を伺ひ。きま
極まらぬ早速自身ふ御出有て尊敬いたし迎へとり
高禄を與へて抱へ置べし。さやどふなくては。よい人は
得がたし。國家は大丈夫ふ治まりがたし。然るふ修行
の為ふ先方より来るは大いなる幸ひあり。幾重ふも國
の政事軍法の事も頼むべし。示るふ豪傑の士を彼是
とあんくせをいひて用ひざるは大あやまりの智恵

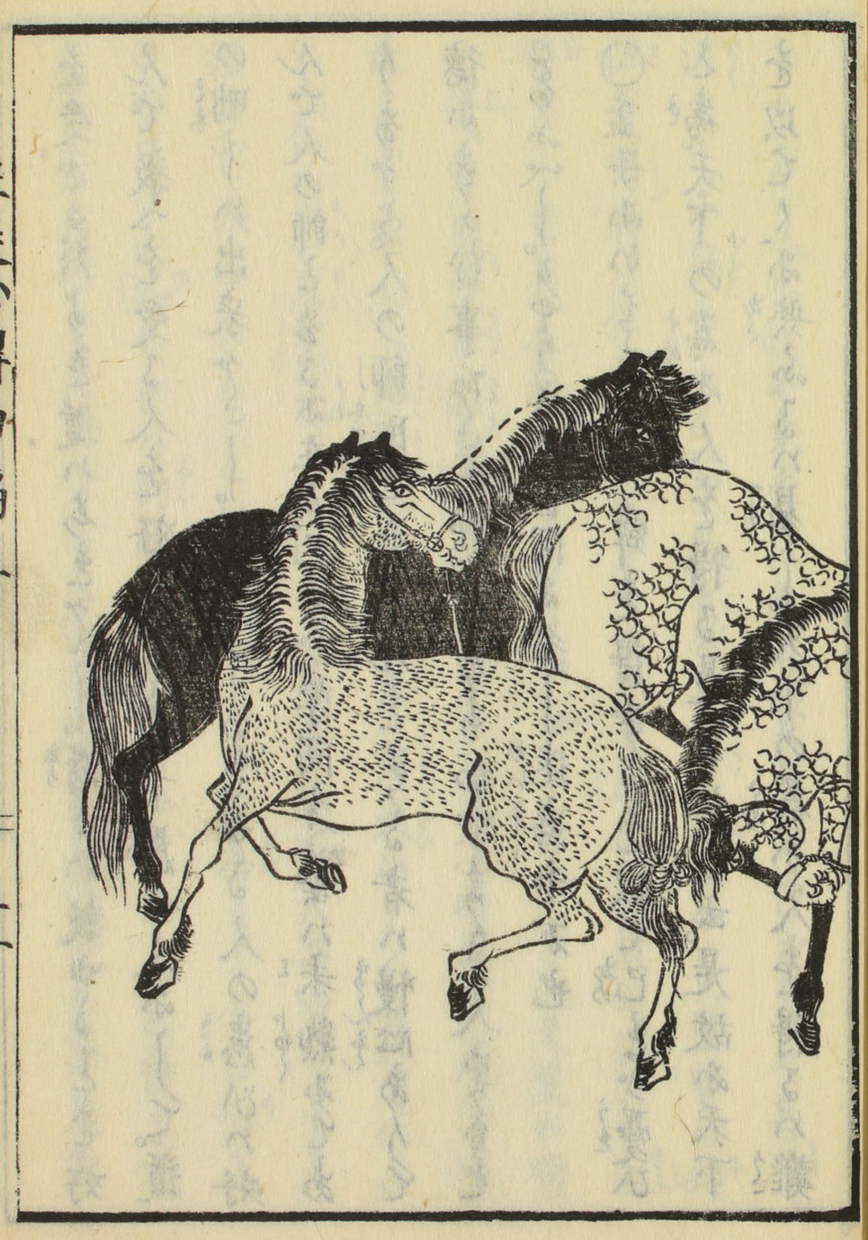
ふ國家を失ふの根本也。大聖人文王さへ三日ものい
ましして。大公望が石上ふ釣もする所へ往て海さへ
車して帰り。直ち軍師とふ蜀の玄徳公も自
身ふ諸葛孔明が所へ三度ふ事三度ありしやう
くとまこへふ與ち事を謀りて大いふよし。予ち孔
明ふるは魚の水ふあるが如しと悦ひふ。賢士は皆主
君より往て礼を尽さばこそ来らぬ。然るふ向うより
来る賢人を蔑ふ末ふりいたし。高座ふ居て愚人同様の
とりあつかひは盲目蛇ち怖ぢの。無目無智ち。家
も身も亡ぶる苦也考へ也元

◎孟子のいはく。將ふ大いふまる事あらんとまるの君ハ必ずを召ずる所の臣あり。謀る事あらんと欲まる時ハ則ちとまろ就。其德を貴び道を樂しむ事。かくのごとくあらざるを。與ふ為事なるふたらを。故ニ湯の伊尹ふおける學んで而して後ニ是を臣とを故ふ勞せずして王なり。桓公の管仲ふおける。學んで而して後ニ是を臣と為。故ふ勞せずして霸（霸ハ大名の頭の事）たり湯の伊尹ふおける桓公の管仲ニおける敢て召べからずとあり。天下ふぬけ出る賢人を求るハ。大聖人湯王文王。その外玄德公桓公のやうふをべし。大聖人大德方さへ腰をゞめて尊敬して此方より迎へふ行ふふ。ふるふ不德無智の人ガ高座ふ居て。賢士ふあふを不敬の甚しきあり。賢人ハ國の宝といふ事をもらざる人あり。御家ハあやうし又大いふ為ことあらんとまる君といふハ。大いある功業をなして天下と為して大名を手下ふつけ。万民を安全ふせんといふ大志ある君の事也。此君ハ必ずよき臣下を求めをふ。其よい臣下ハ人を以て呼ふつゝもして来ることなし。主君ガ自身ニ此方より。ひざをゞめ尊敬せざをバ。来りまゝガを。ごとをふよりて大功を立。天下ふあらんと欲まる君

ハ皆召ざる所の臣下あり。人君ハ尊大富貴を以て重し
とせど。德を崇め賢人を貴ぶを以てよゝしとする時
ハ。國家ハよゝく治りて終めハ天下の主とあるべし。
又臣下ハ人君の敬を致し礼を尽し来ふを待て而し
て後ハ往めへんハ。自らら尊大あることを欲まるゆゑ
ぞ。めゝくの知くあらざるべし。興り道を謀ることあるが
たし。是ようよりて君が恭礼の誠を見て。後ハ往て従
ふなり。此故ハ聖人の湯王さへ伊尹といふ賢人を尊
敬し。君ハ君たるの道を尽せるが故ゆ臣も又其才
智を尽し君を補佐して天下ハ名を揚。君を万乗

の天子とするあり。湯王ハ労せずして大王とあるべし。
桓公とても其通りあり。若よき臣下なき時ハ手君
何程賢ありといへども家を起すことあるがたし。
是ハよりて聖賢といへども。よき臣下を心ゆうけて
求めあふいちんや暗君無智ハ猶更よき臣下ハあく
て叶ハぬとあり。ゆるハ賢士の難癖をいひて。用ひ
ざるハ愚中の愚なるべし。孟子ハいそゐる其教ゆる
所を臣とするとを好んで。其教へを受る所の臣を
好まぞとあり。いづもの人君も皆是式の人ぞうべし也。
世の中ハよく治まらぬ筈あり。何でもよき人の教へ

伯樂名馬を目利する所



を受ざるこはよき道はなもぐさし。爾るを教ゆることを好んで教へを受る人を好まざるは下愚の人なりて。道の咄しは出来ざし。孟子うしのある人の患ひは好んで人の師となるを在と。已もぐ学問才藝は未熟なるありあぐら。人の師匠となるんとする者は慢心ありて徳なもろむ事なしとも。もともなやまう人をもとことのふべし。ゆゆしの人世間を多く迷惑千万也

○孟子ふいちく堯は舜を得ざるを以て已もぐ憂ひと為。天下の為ふ人を得る是を仁と云。是故ふ天下を以てくふ與ふるは易し。天下の為ふ人を得るは難しとあり。此註ふ堯舜の聖も賢臣を得ざるこだ。其徳沢を民ふ施ることなしこは禹皐陶の如き。聖賢の補佐を得時は仁恵をひろく民ふ及ぼす此故ふ是を急務として其人を得ざらん事をうもひあふ。又堯の舜を得。舜の禹皐陶を得るぐ知きは。天下の為ふ人を得たる者ふして。徳沢民ふ及ぶ事廣大ふして是を仁と云ふ。仁は恵を兼とり。又天下を以て人ふゆづることは極めて大事なりとのへども。天下の為ふ人を得るのふときふ比もこべ尚易きことあり。よき人を得るもゆうふむづかし。至つて大切の事なり。もろるふ見ふく

きあ〜ぐ〜りゐて大賢の君子を用ひざるハ。其大事を去らぬとゝふりのゆ〜て。大いなるあやまり也。國家を亡ぼす筈也。其德其藝其智あらぢ何ぞゝゆ〜きをさゝらんや。身の美醜をとるゐ所ぞ。其德智藝を取あり。ちゝるゐ身躰の見ゆ〜きを以て。用ひざるハ無智の此上なの〜。國家の與廃妻子けんぞく家来まぢの死生存亡ゐ〜る大事の中の一大事あり。ゐを知らざるハ愚將ゐ相違あ〜。いつぞハ討死をして。妻子けんぞくまで殺す人と定めあくべし。是迄ハ御先祖の餘光を以て殿様御主君といたゞきて。諸人の尊敬を受ゐ

ども。此後ハ大國を失ひ歌ゐ首をとゝゝゐる。他國へ奏入りてゝく居るゝの始末ハ眼前也。あゝゐ至極とゝゝ。治世ゐさへよゐき臣下ハ大入用。いちんや。千軍万馬劍戟の中ゐ在て豪傑の賢士を用ひざるハ。下々の下將と云べし。賢士ゐゝゐて勝軍とあり。賢士ゐけゐハ負軍とある。此上の大事ハゐるべゝゝ。深く考へゐへ。智仁勇兼備の人を用るゐハ。此方めも智仁勇ゐ〜ゝ誠のよい人ハゐゐ〜。是ゐよゐ〜てよき人を用ゐる者ハよき智者あり。佞奸邪智を用ゐる人ハ佞奸邪智の人あり。我ゞ智恵ざけの人を用ゐる也。よき人を

用ある人いとよき人也。あしき人を用ゆる人ハ悪人なり。
恥〻き事也。山本勘助信玄公へ御目見の時。家来若士ひ
ふ至るまで勘助を一人も笑ふ者なし。皆勘助を敬ふ
人なり。又家老重役の衆ハ。勘助ハ不具ふして見
ぐるしけれども。才智藝能抜群ふ勝まさる者なを
ハ御用ひあつて然るべしとのふ臣下なりあり。勘助
を用る事 ありまことのふ臣下ハ一人もなし。是大将臣
下ともふ智仁勇ある故也。又北條今川家ハ君臣とも
ふ無智ふして勘助ふ見ふくきを嫌ひ用る人なし。
國家ハ亡ある筈なり。武田家ハ君臣とともふ山本を尊

敬して用ひあふ。夫ゆゑふ國家もよく治まりて大繁昌
あり。又合戦ふ勝利を得たる事度々也。既ふ信州戸
石の合戦ふ村上義清の大軍ふ取うとまをして。必死と
覚悟を極めあふ時。山本勘助ゞいたく。是ふ勝利の謀
計あり。是を行ひて。味方の軍勢を助けんと。九十
人の士卒を以て敵をうとがたしめ。疑をいだかしむ
るの計略を以て勝軍とあをり。今日の合戦味方
十分まけ軍也。若勘助なくば。大将軍ととも危ふ
うしを。勘助ふ謀計ふあり。多くの人の命を助け
たり。前代未聞不思議の計畧ありと皆々ほめしと

あり。よき人にわ〳〵き者也。その外山本勘助信玄公のあ
やふきをもくひ。まけいくさを勝いくさとなさる事。度
々あり其外龍東山鍋ヶ峯知久の城主知久監物又龍の口
大蛇が城等を落し給ふ事あげてかぞへがたし。皆是山
本が肺肝より出て主人信玄公の福分と申さん。甲越
軍記を見て考るべし。信玄公も山本あゝバ不覚をとん
ぬ事多かるべし。名将勇士といへども輔佐の臣なく
ては叶ぬと也。是ゆゑ用て智謀勇武の臣ハ尊敬
して足べし。豪傑の賢士を用ゆる也。御城も知行も宝
物も皆軍師が取ぜて主人の徳用とする。徳用ぞうりが

なくば。官位も威勢も何もあるべ。よくあつて富貴繁昌此
上なし。是程の大吉事ハなくべうらぶ。又賢人を用ひざる
時ハ。此方の御城も知行も宝物も何もかも皆取ぜて。其上
が我命ハ元より。妻子家来けんぞく迄。皆ころされて。耻辱
を後代迄が残ること。此上の不吉大損ハなくべうらぶ。是が
よりて。賢人勇士ハ。何ゆゑども敬ひ大禄を與へてよく用
ゆべし。是軽き事があらぶ。大事の中の一大事也。此故う
堯舜禹湯文王等の。大聖人方さへ。賢人の所へ行てひざを
かゞめ。言葉をひくくして。眞實心が敬ひて。頼こゆふ。況や
愚鈍無智の身を以て。豪傑の賢士を敬ひ用ひざるハ下

愚の此上あし。御先祖代々よりの大切なる御城も知行も實物も官位も皆失ひて。國家をそろぼもとへ。此上の不覚へなるべうもぜ。武士とうて此一大事我心ふかけざるハ三國一の空氣者也國主群主一切の武士たる者ハ。急度考へあふべし

○甲越軍記ハふいちく。爰ふ甲州の武田大膳大夫晴信ハ專ら名士をなつ免用ひらるゝふよりて。智謀れ英賢日々ふ集り。隣國風を聽んてあびきまくこゞふ。天文十三年ふハ晴信朝臣北四歳ふあらせあひ。今年正月下旬ふ軍議の内評ある所ふ甘利備前守つゝ志んで申し上けるハ。諸國武者修行の山本勘助と云者。今川家ヲ叅りたる所。庵原安房守彼ゞ才機をたゝめゝ見る所ふ其智万人ふ勝ま武術肩をあらぶる者あし。こゝまふよつゝ今川家へ志きりふ志めゝ所ふうまぐちんべ一眼あるを嫌ひて召抱へらまぜ。若敵國ふ用ひらるゝふ於てハ。今川家の難儀ふあうんうと。庵原遠慮をめぐらし。其ゝへ添狀を付もゝめ遣ゝ候ふより。我家ふ逗留致させ。此間よりうれが兵法を論まる所を兼るふ。當時無双の者と存ゝ奉まべ。御召抱あり可てよろゝしうゝと申上けまべ。晴信聞ゝ召ま。余勘助ゞ名を

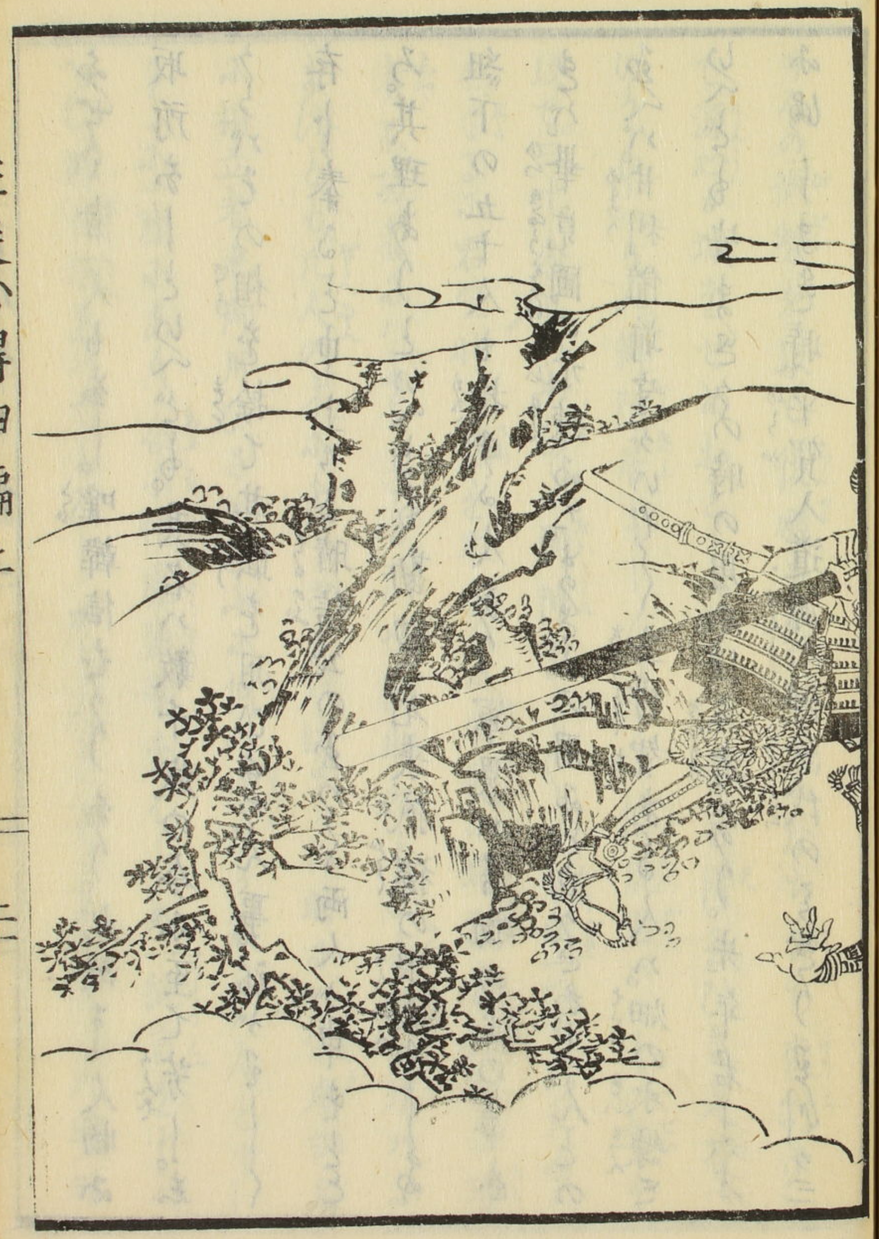
聞事久し。庵原がもてる所とあるべし。猶以て捨がたし。急ぎよび出すべしとあるべし。備前守勘助を引て御前へ出るゝ其挨拶甚だ見めくるしかども。若待ひゝるる迄。慎こうやまひて。声を出して笑ふ者あど決して有し。皆平伏して居たりけゝ。晴信朝臣へむかし勘助ゝ對面をとげゝひしかども。もぎとゝろぎる体あて御目見の事終りて。勘助御前を下りるべし。晴信朝臣左右ゝ向ひ仰せらるゝ。いふゝ旁く今勘助ゝ人物を見るゝ。取所あき片輪者也。とゝゝ見ぐるしき小男あるべし。何程の智勇ありとも。こけのあるべきたる事也。

是ゝ穴山板垣甘利小山田等の人ゝもぐるべきたる者ゝのまゝあるべし。人ゝ事をかきたるとりゝめもあらむ。庵原がもてめも黙止がたしとゝへども。用ひずして有しかりんと。餘所々々しくのこまひたる。是元来晴信公遠き慮りある名将あるべ。一ツゝゝ群臣の智をためさんが為。二ツゝゝ諸人の和不和をためしあるんとの御意あり。板垣駿河守進て申しけるゝ。主君の上意とも覺へ奉らば。がうけつ英雄ゝ人相を以て犯るべし。黄金の弓ゝ甚だうつくしく。珠玉を以て矢を作りるゝべ美ある事ゝ美あるとても其用るゝ何の益あし。某し

うけたまはるに。名馬と申まゐあへて尺の高きにもあらず。又毛あしのうつくしきにもあらず。足ゞ早くして一日に千里もはしるといへどもつゝまず。重荷を駄にあも倒さざるを名馬といふ。某しに於いては男つきハ取らざる所あり。唯軍術武畧のもぐれたる所を取あり。主君の御明智を以て彼ゞ論をよく聞し召さば秀でたる能のうを御用ひ有て然るべしと憚る所なくのべ申ける。晴信公左右を見まはし甘利小山田等此外に論ハあきやとのゝへた。小山田備中守つゝしんで。信形の申さる所甚ゞ利あるやうに覺え候。先勘助ゞ名の高きを久しく今

日前に見る所。至て小男にして其上に片輪者也。さるに其名遠近に高き事ハ。うもとに取べき所あるにより所あり。和漢共に天下に名をとつたる者ハ。人物にもおいてハ更に取所なき者多し。むかし齊の晏子ハ甚ゞ小男にして見ぐるしき人物なれども。齊の政事を輔けて賢才の名あり。又漢の世を引起したる韓信ハ人に胯をくぐり。食に飢て。一家親類をくひまとり。人のきらひし男なり。其上相貌いとみにくく。人物にもおいてハ取所なしとのゝしれども。項羽の大軍大敵をふせぐハ韓信たゞ一人なり。高祖の臣下に項羽の強敵大軍を

後藤又兵衛佐久間玄蕃を生捕圖



ふせぐ者一人もなし。唯韓信ばかりあり。此故に人物ハ取所なしといへども。其名ハ數千歳の今ハ至て芳し。おろかなるべその相を捨て其能を用ひ給ふ事。誠ゆゑ〳〵く存じ奉ると申上る。晴信公の如く〳〵両人が申せしことろ。其理ありといへども。勘助ハ元来孤獨の浪人ゆゑ組下の五十人も持ざる人なり。軍畧ハ書物の上の事なれば。畢竟圖の水練なり。まことの用ゆい立がたからんとのあへば。甘利備前守がいへく生得智ある人ハ。畑の水練といへども。皆まことの時の用ハ相立者なり。先年若十六才ハ源心御誅伐のこゝろ三

百人の微勢を以て後殿をなし入。又たちまち夜討をして。源心が城をせめおとし。かしらが首を得ひき。是等ハいへ〳〵申べからん。御隠居まし〳〵たる信虎君ハ八千の勢を以て。三十余日のあひだ對陣まし〳〵て。石垣一つもぬきなし。ゆゑ。ゆゑ君ハ一時ハ勝を取なれハ。合戦の場數を經たる功者不功者ハよく〳〵ぞる所也。勘助たとひ合戦の場ハふまじとも。凡人の才ハあらざるべ。ゆゑこの時ハ急度御用ハ相立者也。御用ひさせあるハ何の煩ひ候らんと申しるるハ。一座ハあり合小幡虎盛等をそゝのかして。御召抱あつてよろしからんとまをすべし。此時晴

信公怡悦浅からぎ。汝ぢらぐ高見おどろくふ堪たり。こを以て見る時ハ。今川家ハちや家運くさむきたり。義元今二ヶ國の大守とこして人を知ることなきぢ。唯人物の善悪を以て兎や角とふ者ハ無智の此上なし。見よ〳〵頓てかろぶべし。又家来の内ふも勘助が軍畧武術ふ勝きたる事や去る者なし。唯人物を見ていやしゝめあふとりて其能を取さるハ。愚鈍といふべし義元が内ふおいて勘助を去る者を庵原安房守唯一人のこ。予が家ふハ一人も勘助を用る事をきといふ者なし是其能をちり。軍法武術ふひいでゝ急速用ふ川を去るふ及なり。余ハ家来の冥加ふあるハて

満足ふ思ふ也。今ハちやつもふ及ぢぢ。汝等ふ其本末をこたりきこうべし予未十三歳の冬十一月小幡日浄がもとめふよりて。ゐそふ勘助が仮住居牛くがふいこりしこぎり。かきが大いなる猪を突ことめし手練をまのあたり見こり。誠ふ大剛の勇士といふべし。又爐上ふ圓坐して軍畧をろんじ。その時主従の約束を致し。晴信が代とあり。おそ参りて仕ふべし。そきまでハ浪人武者修行と稱し関東八ヶ國のあいだをうけめぐり。晴信のためふ國々の弓箭を試こて。其後ふ武田の家ふ奈らんと深く申合せて。我ハ本國ふ帰り。あきハ他國へ出たり。實をふ

まづ武者修行ハ。まづ為のうゝ目付。我國のつよさを
うと語まゐひしゝゝぞ。一座ふあり。ふふ人々ハ主君の深
慮凡夫の及ぶ所ふ非らぬぞ。此上ふ勘助を召抱へゐぐ。
俗ふいふ鬼ふ鉄棒隣國ふ大敵ありとりふとも何ま
恐まうあらんと悦び勇まざるハあらうける。是よりま
勘助を二百五十貫ふ召抱へゐひ。士ひ大將の内ふぞ。加へら
まーけ類

○信玄公ハ當時の名將ゐ〜て。天下ふもあるべき御人
也。ちうまども運ふ〜〜て。天正元年正月　沼田の小ぜう
合ろ。鉄炮ふ當り疵を得て。療治まゐまども叶まず

〜て。終ふ陣中に死去〜ゐへり。是ふよつて勝頼御跡を
継ゐへども。愚將ふ〜て。老臣智者の諫めを用ひず。長
坂跡部等の佞奸を用ひゐふ故ふ。御國ハ大乱あり。要
事軍法等も理ふ當らぞ。此故ふ所詮武田の家ハ滅亡ー
知つて勝頼をうとまぬ者もあらうける。中ふも浪人組
の大將縄無理之助長武ハ。山本勘助ゞ跡を継ゐどの智
謀勇武の者あり。その外五味與三兵衛。飯尾弥右衛門。
三枝勘解由等ハ。勝頼の愚將を嫌ひ。長坂跡部の佞奸を
憎〜て。武田家うあり。あぐら禄を受ゐ臣と稱せぞ。浪
人組と称〜て。同志の輩一所ふあり。他國へ奉公の心あま

ども信玄の恩義を思ひ。又馬場山縣内藤高坂等の老臣の忠義懇志ゐ留らきて。退去きる事も得ざりしゲ

天正三年五月三州長篠の合戦も其理ゐゆゑ。老臣どもの諫めを用ひぞ是ゐよりて呼詮武田の家い滅亡とゐりて。長篠ゐて憤死の面々ゐい馬場美濃守原隼人望月左近安中左近横田十郎兵衛甘利三郎堀無手右衛門同じく備前守山縣三郎兵衛内藤修理之助真田源太左衛門同じく兵部之丞高坂源五郎等ゐり。天下ゐ名の聞へたる名将勇士二十四将。その外の勇士數をゐらぞ當時信玄公ゐどよい臣下をあまた持たる人あしと

の事。其智謀勇武の臣下達。勝頼の不仁愚将佞奸を用ひゐふを惜こいりて。信玄公の恩義を泉下ゐ報ぜんと。此長篠の合戦ゐ大ゐと討死をいたしたり。一騎當千れ勇士皆泉下の鬼とゐつたり。惜き事此上あし。是ゐよつて勝頼も直ゐ亡びたり。愚将い妻子けんぞく一切諸人ゐ死をあたへ大災ひをゐどこも。大罪人也。又智将い妻子眷屬一切諸人ゐ長命大福徳を與へゐふ大善人ゐり。愚将と智将との善悪禍福大損大徳のさうひをよくゐりて。智将を尊こうやまふべし。何でも智仁勇の三徳ある人を用ゆべ。よき人さへ用ゆ事ゐ國家い安泰

ふして富貴繁昌あり

○是は武家方の事とだがり思ふべからず。百姓町人たりとりへども。相應ふくらを者は。よき人をえらんで其家々の家業ふ上手ある人を用ゆべし。下手と上手とを大いなる相違あり。何分ふも篤実の智者を用ひて此人ゆ相談して家業を出精し家内を安心ふらしもべしたゞへ何様の藝欲ありとも。身をよくおさめも家を齊もしては。其餘は觀るふ足らも。役ふ立ぬ人とゝるべし是りよつて才一身をよくおさめ家をよくとゝのて一家一門の上座をいさし。何事ふも相談頭とするべし。

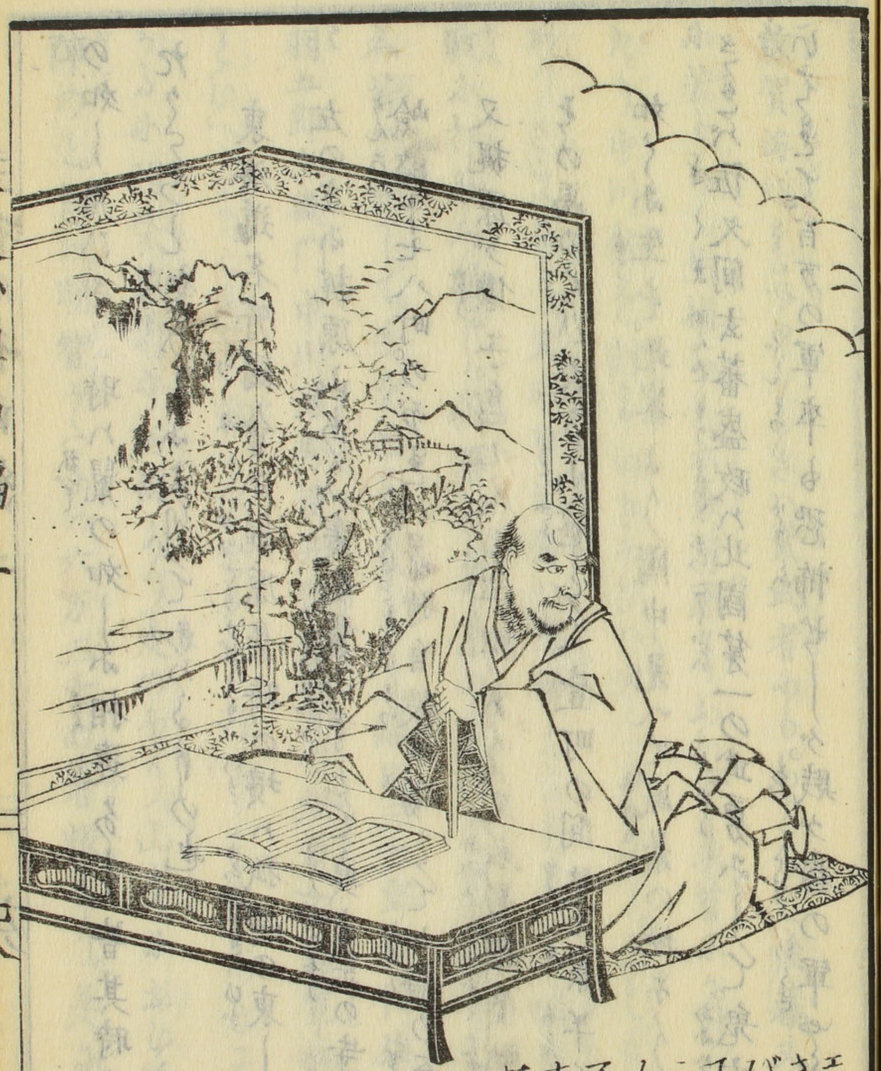
若又金銀等を出も事あらば。人より餘計ふ出もべし。そもも節ふつゝ無益の事あらば了簡あるべし。益をあり人の為ふもある事あらも。身分相應の事ふあらげあく出もべし。損とふ義ふあらも。大功徳とするべし。是をよき人とふ歌ふ○世の中をよくもきまへて身を正し治めん人ぞめでたかりける

○和論語ふ平の重時のいもく。國の起りもろぶるを見るふは。政道の善悪を見るふもろも。政道の善悪をゝるふへ。賢臣を用ゆると用ひざるとふあるべし。又藤基尚のいもく。今の世ふ善人を求るふなしとふは更ふもろ

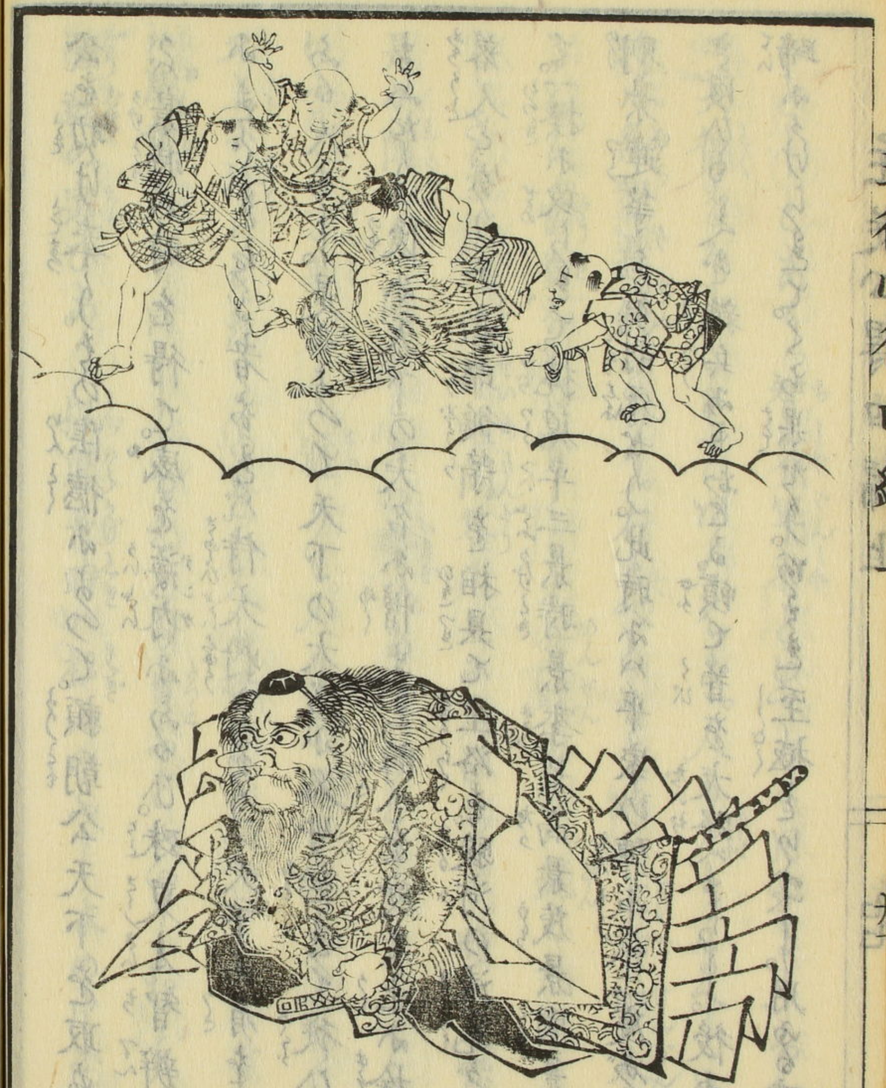
得ぎ。主将たらん人。是を尋ねもとめるべし。唐土の太公望以下の善人は皆片山里より尋ね出せ。我国にも上古より此ため多し。主将の心に善あるをよき人はいつでもいる者ありといへり。主将に仁智あり用てよき人を尋ねたらばいくらもいるべし。鬼角よき人を知て用ゆる主人がなき故に。智仁勇の善人は一生埋没して。人にたらずしてくらす者多し。残念千万也。古文真寶にいはく。世に伯楽あり然して後に千里の馬あり。千里の馬は常にあれども伯楽は常にあらず故に名馬ありといへども。抵奴隷の人の手に辱しめられて。櫪の間に斃死せ。千里を以て稱せらるべしとあり。此心は伯楽といふはよい主人にたとへたり。伯楽といふ目の利きよい主人があるべ。千里も走る所の名馬のよい臣下は常にあるべども。よい主人の伯楽は常にあし。此故に名馬のよい臣下を知る人なし。無智愚鈍の者どもに一生つかはれて。馬屋の内に斃死せ。千里を走る名馬のよい臣下とをめらるべぞ。一生を送る口惜き次第といふこと也。もろもろ唐にも日本にもよき人を知て用る者少しとこそ。残念千万此上はあるべからず

○文選にいはく。用る時は虎の如し。用ひざる時は鼠

のごとくとあり。智者軍者といへども。用ゆる人あき時い其徳をゆどとをとのとそぞ。人も尤りまへとある時ハ無智愚鈍あり。右まへとある時ハ大智賢人とあるあり。富貴あをば賢ここえ。貧賤あをば鈍と見ゆるがごし。さをば河伯井蛙問答ふ。上ふ用ひらる時ハ。人恐をて是ふ隨ふ。人隨ふときハ勢ひあり。いきゆひあるときて いふとて万事よく通りて。人是を制をることのくらを。又上ふ捨らをたるときハ人も恐をぞ。人おそをぞる時ハ威勢あし。同じ人おをども貴ぶといゆ。むとを。大小強弱の違ひあり。梶原景時ハ杉山のふ。木の中ふ頼朝公を助け奉り。その陰徳ふよつて。頼朝公天下を取ゆひ。景時ハ時を得て。威を海内ふふるひ。殊更才智辨舌人ふをぐをたる者ゆをば。侍大将とあり。天下ふ肩をあらぶる人あり。是ふよつて天下の大名小名皆恐をて。従ひうやまふたり。後ふ天下の大名ふ憎まを。訴へを受て上ふ捨らを落人とあり。子息郎従等を相具て上洛を。駿河の清見ヶ関て。一揆ふ攻らをて。梶原平三景時景季景高景茂景國景宗景則景連等ゆを討死せり。此時ふハ平家の陣中へ二度ゆりのいきほひもをへど。雑兵ふもおとる。頓て首を大路へさらし。後ふを馬蹄ふかけらをて。くち果たり。ゆるを時ハ虎



エ、物おぐさ、ふをびゝゐつてゐ供ふこゝさもんとする不を元三大師たすけ給ふ圖



の如し。用ひざる時ハ鼠の如しゝ相違あり。皆其時のまゝ
たくさちと勢ひとゝよ川てあつるの也

東海道名所圖會ゝ梶原景時の墳ハ狐崎の東し。岩原の
左の方ゝ梶原山あり。爰ゝ靈山寺とて真言宗の寺あり。
嶮路十七八町。のぼるべ。景時自殺の場とて五輪の石塔あり。
又梶原ゞ像。子息七人の位牌あり。又名馬摺墨馳来りて。
その馬のくひたる小笹とて。壹町の間笹の葉半くひたる
如くゝゝ生ゞ。此峯より國中見へて風景の地あり
さるべ佐久間玄蕃盛政ハ北國第一の武勇ゝし。鬼玄蕃と
いとゝて。百万の軍卒も恐怖せし。賤ゞ嶽の軍ゆゝ。

敦賀海道を落ゆくしとき。葉武者ゝあとりて。後藤又兵衛
ゝ苦ゝあく生捕らゝ。六条河原ゝありて梟首ゝくけらるゝ
たり。中川候を討しいきやひハ少しゝ。あるゝ
ゝりさまあり。又明智光秀ハ鬼神とよゝゝ信長ゝ。一
戦ゝ打ゝゝ。将軍とありいきほひ強大ゝ。諸大
名皆恐怖して。手を出さりのゝ。織田三七郎同信雄卿。丹
羽五郎左衛門。中川清秀筒井順慶等の強勇の諸軍勢あり
とゝ。こゝを打まゝ事ゝ。こゝを打まゝ事ゝ。志
るゝ羽柴筑前守西國より走のゞり。山崎ゝおゝて對
陣のとき。明智ゞゝ六万三千の着帳あり。是ゝて

秀吉公もあやうかりんとあるほどあり。然るに山崎の一戦に明智方。惣敗軍とあり此所を立のく時は三千人とあり。此人數を引て坂本の城へ落ゆくとき誰あつて一人も恐る人あり。なまつさへ百姓共の一揆に出合三千人の軍兵も皆ちりぢりとあり。唯主従十四五人とあり。溝尾庄兵衛その子庄三郎村越三十郎等あり。是等も小栗栖野を通る時。百姓どもに竹鎗めて つらをけをどもよろひふなのくつてあやまちあり。明智光秀は六人目馬に乗て通りる所に百姓長兵衛とふ者。やぶどりに竹鎗めて明智の横腹を一き通したり。深手なれば馬より落て逃去のこさる。

たり。末代までの大恥あり。中々百姓の竹鎗に突るやうに明智にあらず。たとひ落武者とあるとも。福徳も威力もあるにあらず。佛神も守りあらず。天も見捨ゆふと見へたり。慎むべし恐るべし。是はむつかしいさのあり時は。人の事とたやすく思ふべからず。唯今めても此道理あり。たとへば御上に用ひらるてよい役義をたとめて居るとも。誰あつて肩あらぶる者一人もあり。其威勢虎の如し。然るに何ぞ越度有て役義をめし上らる。御屋鋪ぐへでもある時は。平生の威勢はちつともなくなつて鼠に鷹にあるる。鷹につかまるてくる。雀のごとし。賢不賢強弱の差別に

く。ひどい目ゐあふべし。先の落人とあつたる人の如し。家を身もけんぞくも微塵とあるべし。是ハその外の人くも皆うくの如し。ふらばさうんある時う鉦く用心して。仁義禮智信を行あひ。真直なる道を通るべし。さもさべたとひ越度ありとも。ひまり大恥とハある邊うとも。是ハ不時の災難ともいふべし。是ハ人間ぞううゐあらむ。佛神をたゝ免一切皆うくの如しと見へたり

○北越奇談五ゐ神ハ人のうやまひゐよつて其威力を増きとしへり。実ゐさもあらんう。越後の國一の宮伊夜日子の明神。近辺の小社神ゐ向ていたく。あんぢつ稱〳〵齊家治國平天下の道理を説といへども。唯小社の中ゐ寓てまとゐ見るうげもあけきば。人こを敬ひ祭る事ゐ。又いのるゐたるしゐるとあ〳〵。口と行ひと相違ありと見へたり。慎とおへといひけきて。小社神荅へていたく。韓信漂母ゐ食をりとゐる時ハ愚め〳〵て。元帥とある時ゐ至つて。始て智あるゐあらむ。元ようの大智ゐ〳〵て唐土第一の軍師あり。然きども人のうやまひ用ひざる時ハせんだくゐ御飯を貰ひたべて。其日を漸々と送りける。又呂尚大公望ハ年八旬ゐ満て一人の愚妻を教ゆる事ゐてさたべして離別せり。ふりといへども其

其用ゐる時ゐ及んでハ。其智天下ゐ一人も及ぶ者なし。唐土ゐ唯一智あり。是皆敬ひ用ゐる人あきゐよりてその智施し給ふ。神も人のうやまひゐよりて威力をまし霊験もあるべども。もしまいらせまゐ其敬ふ人を得ざ。爰を以て小社ゐ居て威力もまいげんもなしといへり。御成敗式目ゐも神ハ人のうやまふゐよりて威をまし。人ハ神の守護ゐよりて運をそふといへり。ちうバ佛神も人も用ゐる時ハ虎の如し。用ひざる時ハ鼠のごとしと見えたり。是皆時と處と運と不運とふよる事なり。その運不運ハ天命ゐ。人の自由ゐハなりがたし。天の命ゐ

ゐまかせて。たゞ日夜善をしてくらすべし。善さへまもべ。決定しなあしき事なし。まこと運もよくなるとちるべし

○北條九代記一ゐ。兵書ゐいはく。凡そ人の所作も。其時のまとごゐ依てこまゐ應ず。智慮もまこうくのごとし。とあり。此詞のごとく相違なし。青砥孫三郎がりゐ所。いつも金言妙句ありといへども。用ひざる時ハ上総の國青砥の庄の馬追あり。又用ひる時ハ天下ゐ一人の名士なり。天下を治るわざの智慮ゐても用ひざる時ハ。まづ一已の身を養ふ迄ゐして。天下ゐ名をほどこす事なし。

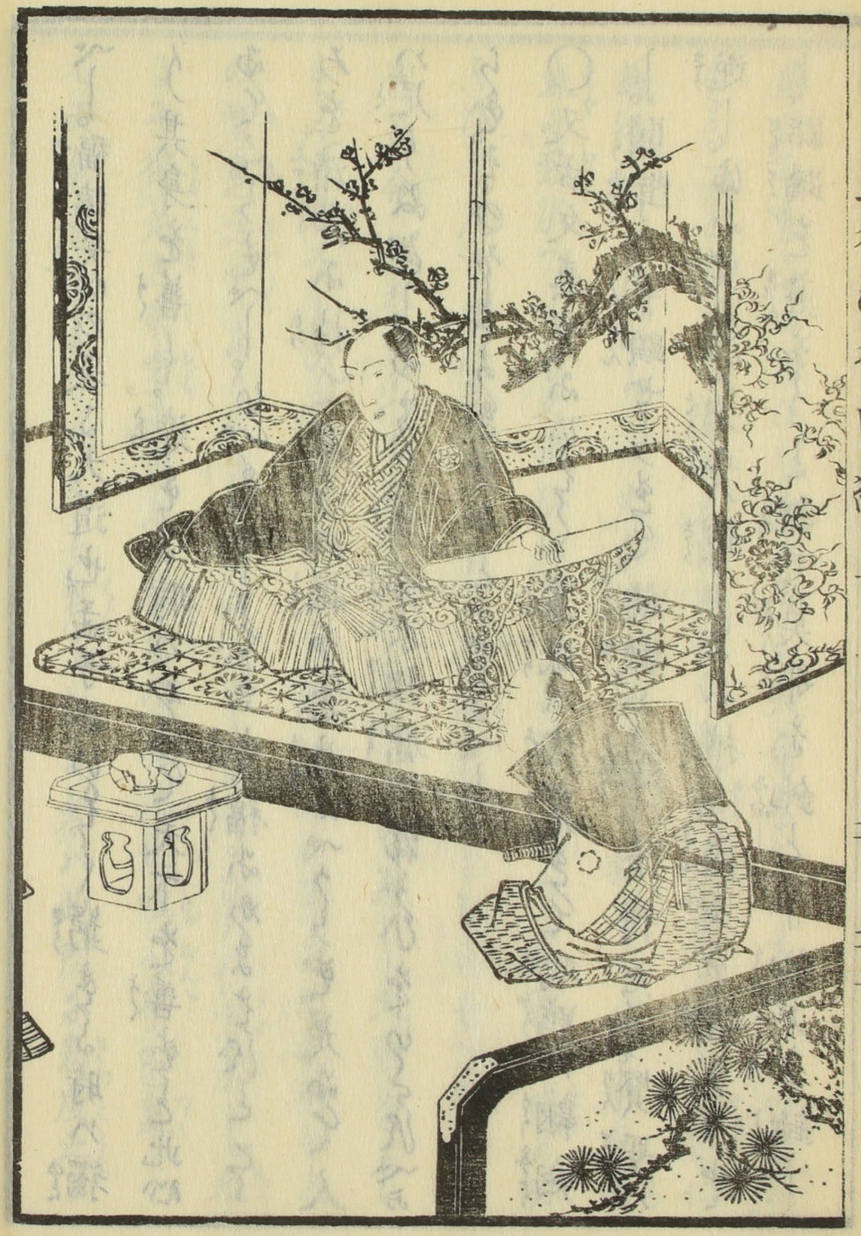
迷惑して空しくありぬべし。又鬼神とてもめくのどし。往昔元三大師比叡山のきらく坂を通り給ふ時。童子共大勢よりあつまりて。老鷲の羽抜くるを捕へて此鳥を常の鳶ありへ眼の光りもまるどくして。おろしき鳶ありとあがりものめして。まぢふいしり殺さんとする所へ元三大師行めぐり給ひて。偖々不便のことありと思ひぬひて。子供の此鳥をもとめくをよ。をあち助けんと仰ぜらるけるとども。聞いまぢして打殺さんとするゆゑふ。下男ふ持せし小遣銭を。子供ふなくへて此鳶を買とり給ひ。衣の下ふくへて山上ふのぼり。老鷲のいををぞるノ家ふ近づきて。まぢふ殺さんとをちり。此以後ハくをいてなやまちを去給ふあとのりとをり放ちやり給ふ。さて元三大師ハ其夜経机ふりとまて。もとし眠り給ふ所ふ。衣冠正しき僧。立派ある金襴の袈裟をうけ。太刀を帯し。身の長七尺余りの大入道床のほとりふ来り。合掌して大師ふ向ひ申けるハ。今日ハ一命を御救ひ下さるをありがとく奉存候。其御礼ふ参上仕候とりふ。大師きとして夫ハ心得ぬこと哉。もをめくる異形の僧をたをけたる覚へあし。定めて人違ひあらんとのゆひける時。彼僧申しけるハ。もをハ比叡山の次郎坊とりふ天狗の首令也。ちるふもをを今日あぐさを

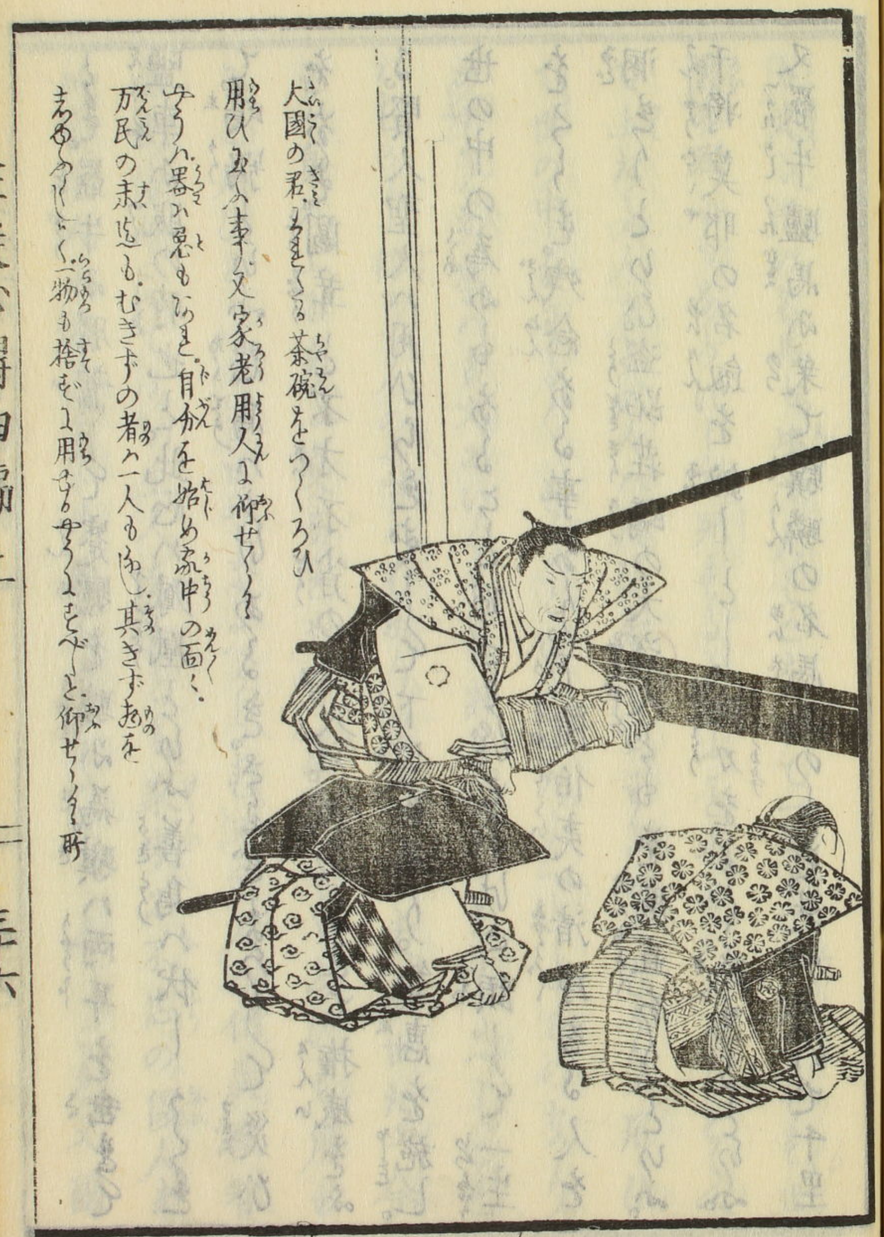
の為ゆ。鳶とあゆてきらく坂のそとりをそいくるまいし。そ
らく彷ゆり居る所ゆ。ちちらゆ子供ゆ捕へらるて。既ゆ打
殺さるもてんとする所を。貴僧のあらげゆよりて。一命を助ゆ
り大難を遁れたり。此御恩を報ぜんが為ゆ。御礼ゆ参り
候と申しける。大師申さるゆやうは。元と天狗の首令あら
ば。魔術の大将ゆて。自由自在不思議の神力あり。ちゆるりも
づゆ小児のためゆ。さいあるまも。落命ゆもいさらんこそいゆ
ゆも心得がこと申さるけもば。次郎坊のいそく。天狗のを
ゆとゆて居るときは。大千世界を一目ゆ見下し。此叡山も自
由自在ゆうごるも所の神力あり。ちるもども犬とあるとき

は犬だけのちてちるきあり。又人とある時は。人だけのちて
らるき也。又天狗ゆて武勇のちてちるきある時は。世界中ゆるもゆ
及ぶ者一人もあし。又鳶とありてある時は。鳶だけのちてちるき
ゆて。子どもゆもいちり殺さるも候也。その時々の姿だけゆ
働きありは出来がたしとゆもちるり。人間とても
又ちくのごと。其時々の姿ゆよりて。智恵も働きもあるる
者あり。天狗の首令だゆゆくのごと。いそんやその外
の者どもは。猶々其時の姿ゆよりて。強くもあり。よわくも
あり。智者ゆもあり愚者ゆもあるるの也。今の人くも
又ゆくの如し用ゆる時は虎の如し。用ひざる時は鼠の如。

用ひらるも用ひらるゝぞるも天命なるべ。あまり心を労
するこゝとなかるべ。若又人ゝ用ひらるゝ盛んなる時も。弥々仁
義を行ふべし。いかゝ人ゝ謙下り弥く私なく。物事を真
直に致すべ。若又用ひらるゝぞる時ハ。獨り其身を脩め弥
くひそんで其心をよくして。無事を楽しゝとすべ。いづ
も天命にまかせつて安心に世をくらすべし。天命をまち
ぞんぜ。君子といふべくらむ。論語のいましめ也。何やど
の智恵才覚ありとも。時のいたるぞるめハ仕方なし。尓
るに彼是と苦労に思ふハ狂氣の沙汰也。唯人事を盡し
し天命を待より外なし。君子たる者ハ此所に急度止る

べ。福徳安心の来る大道也。孟子にいはく窮まる時ハ獨
り其身を善し。達する時ハ兼て天下を善とす此心
にてくらすべ。いづれにしても貪福にあまるべとて
ろを清浄に持て。君子の操を失ふべくらむ。是にて人
ハ足りぬべ。あまり身分不相應の福ぐひをのくらべ
らむ。そのやどよき所にふとゞまるべ
○又古文真寶にいはく鶩鳳ハ伏竄して鴟鴞ハ翺翔
し。關茸ハ尊顯せらるゝて。讒諛ハ志しを得たり。賢聖ハ
逆しまに曳まて方正ハ倒しまに植り。隨夷を溺まるゝ
し。跖蹻を廉なりと謂て。莫耶を鈍とし鉛刀を鈷し





大國の君、ろまてる茶碗をつくろひ
用ひ、ゐる事、又家老用人より仰せつけ
ける器は惡もいまと自然を始め流中の面々
万民の末迄も、むきずの者は一人もなし、其きずあるを
あるがしらく物も捨ずに用ひるやうにとぞ仰せられける所

しるし。騏牛ハ驕駕して蹇驢を驂ハ為。驥ハ両耳を垂て
鹽車ハ服の時也と。此心ハ鳳凰とハ善鳥ハ伏しうくる
て。鴟鴞とハ悪鳥ハうけあるき。さてぎまりて災ひ
をあるし。闞茸と不才不肖の小人ハ。用ひらるて權威をふ
る。賢人聖人ハ用ひらるゝして下位ハ居り。智恵を施し。
世の中の為ハもあることなくて。そなけて顔して一生
をくらす。残念ある事あり。下隨伯夷の清浄ある人を
涸るとハ。盗跖莊蹻の大盗人どもを廉直ありとハ。
干將莫耶の名劔を鈍しとして。鉛刀をよく鋭まるとハ。
又騏牛驢馬ハ乗て驥驎の名馬ハのらず。是ハよりて千里

も走る所の名馬も。塩やたきこを駄て一生よい手柄をせず。世
界の為ハもあらばして。死まるとハ也。是ハ馬ハあそこへ
て上たる人がよい人ハ用ひずして。まるい人ばかり用ひ
て。世の中をまるくまるとハふたとへさるものあり。
あやりハ事ハ古文ハいくらもあり。ひらき見るべし。こゝ
ハむかしの諺り。人の事とばかり思ふべからず。今世たゞ今。
まゞ身の上ハある事あるべ。賢愚をよくしりて用ひ
ると用ひざるとをなやまるべからず。又主人ハ仁義禮智
信あるいさつてよい主人ハまゝども。家来ハ不忠の佞人あ
りて。主人ハ悪をまゝめ悪人ハまる臣下あり。こゝ又國

家の大害あり。急度心をつけて追拂ひ給ふべし

○和論語三ノ大江の廣元朝臣のいはく。君あきらうあり

といへども。近習ノ佞人あらば。人を喰ふの犬ありと考

て。近習をえらんで使ふべし。常様の交りふも此心あるべ

しとなり。此心ハ近習ノ人をくらふの佞人あらば。國家

の禍ひ是より大いあるべかなし。此犬ちゞめハ賢人をく

らひ。次ノ民百姓をくらひ。後ノ主人をくらふ。大悪無道な

大あり。早く遠ざけて足下の愁ひを除くべし。佞人の大世

間ノ多くなつて。上下の大禍ひをあも。きびしくせんぎして

近邊ノあくべらひ。帝範ノいはく。蕙蘭茂らんとも

ば。秋風是をやぶる。E者明らあらんとも也。讒臣是を

暗ますもとのべり。世ノ憎き者ハ佞人不忠也。君をくらま

し万民の難儀をかまはぬ。已も一人よい事せんと欲も。

上下の大禍ひ悪人の張本也。深く察して遠さくべし。君

らもを退けぞんば。禍ひ月々日々ノ来りて終ノハ國家を

亡ぼもべし。古語ノ至佞ハ名言ノ似たり。至奸ハ真直ノ似

たりといへり。至佞至奸ハ甚ど志をぐ、きりめなり。志

りといへども實智より見察もるときハ。中くあくも

をハ出来がさし心をつけて見給べ。何ぞ佞奸どもノ。く

らまさんや。畢竟主君ノ深智あく。國家を治む

ふ油断なるふまつてあり。機をつけて禍ひをふせぐべし

○家語ふ孔子のいそく。政ごと正しゝめらざる時ハ君位危し。君位危き時ハ。大臣ハ倍き小臣ハ竊む政支たゝ君の身を藏も所以ありとあり。此心ハ政事正しゝかゝざる時ハ。大臣ハ倍きたゝあもてたゝこゝろもと。小臣の者どもハ君の物をゝもめ取を徳とゝて君の御あんぎをゝまるもと。終ふハ國家を亡ぼもとあり。是ふよりて政事ハ君身の存亡ふかゝる。至て大切のことゝ。又奉行ハ勿論下役人のもろきも。主君の安否ふかゝる事おもゝ。よき奉行を用ひて真直ふたゝらひあるべし。もし不直の政事あらバ國家をゝろぼも事眼前あり。又君の威をゝりて万民ふ災ひもる臣下多し。一切の君たる人ハ我臣下共の悪事ふ心を付て。第一ふ是をひどゝ糺もべし。君ふハ仁心あもとも。佞奸の臣下共ゞ私しをして。御政事の怨敵とある事あり。家来どもの悪事ハ主人の越度とある是ふよつて急度糺もべし。是もよい奉行を撰ゝて政支を明らゝふせを。ゝのまり悪事ハぜゝ者ふあり。百姓町人の悪事を糺もゝりハ。近習役人等の悪を第一ふ糺もべし。鬼角君の威をかりて。百姓町人をゝるしめ難儀さ

せる臣下多し。國家の大害あり。主君たる者是を考るれい腹心の隠密をもりて開紛し。若悪事ありといえど。又外の人を以て能く聞紛し。誠の悪事ふ相違あるべ。その悪人を急度罰もべし。都て賞罰の中るゆりおもべし。一人を罰して諸人恐を怖もてる様ふもべし。ゆまり悉く罰もべくらべ。大勢の者の難儀とある。是ゆ一ツ遠慮もべきことあり。又うき旧悪ハあまりせんさくもべくらも旧悪を改めてよき人とあつたらば。見ぬふりもらぬ顔して居るべし。軽き旧悪をせんさくして罰ももべ。後日ふ功を立て。身を全ふもてる者あるべし

又過ちてハ改むるふ憚ることあるもの聖語ふも違ふべしゆゑ中道ふ叶いぶもべ。善政といひがたし。賞罰ともふ中道の計らひあるべし。いづもの臣下も主君の前ふてハ真直ふ誠の事を申上る者少ふ。たゞ表向のよろしきやうふつくろひごとを申上る者ばかりゆゑ也。是ふよりて主君たる者ハよき穏密を以て聞紛さぶもべ。善悪是非の水源ハもをぐし。真直ふ智ある人を使ひて。らそ偽りのあい所をきたゞし。内證をよくもりて居て。その上ふて中道のよろしき計らひあるべ。何分ふも慈悲を以て取行ふべし

○心學手引草ふ。むかし大國の君ふ麒麟と稱する秘藏の茶碗あり。是を小姓あやまりて打ちわるゝ。いくばくハせんと恐入て君命を待所ふ。仁君是を聞ゐひて。あやまちハ誰しもある事也。咎めるふ及ばぞとの仰せゆて相濟ける。ゐるゝとき諸役人出仕の節。大君右の茶碗をつくろひ用ひたき者ありと。仰ありけるに。若君をはじめ。家老用人どもそれハ疵物なり用ひがたし。新規なる品を御用ひあれかしと。一同申しけるに。大君の仰ふハ。汝等が申もとも尤なれども。疵物を捨て。無きぞなる物なりを用ゐる時ハ。奢りとあらんて

冥加悪し。疵物でも時所ふよりてハ大いふ用ふ立事あり。そゝろハ右の茶碗をつくろひて用ゐべし。又器物ハ兎も角も。自分をはじめ家中の面々万民の末々迄ふ。むきずの者ハ一人もなし。こゝハいかゞせん。國家を治むるの要道ハ。その疵物を修復して一物も捨ぜふ用ゐべし。万民の末までもよく教へ厚く世話をして。元の旧疵をつくろひて用ゐるやうふ改道ありたきものの也と仰せありけるハ。皆一同有がたく思ひ。涙ふ袖を濡やりけるとなり。古歌ふ○民草ふ露のあきけをうけよろし。世々の守りの國のつゝきハ。と此歌の通ん〳〵万

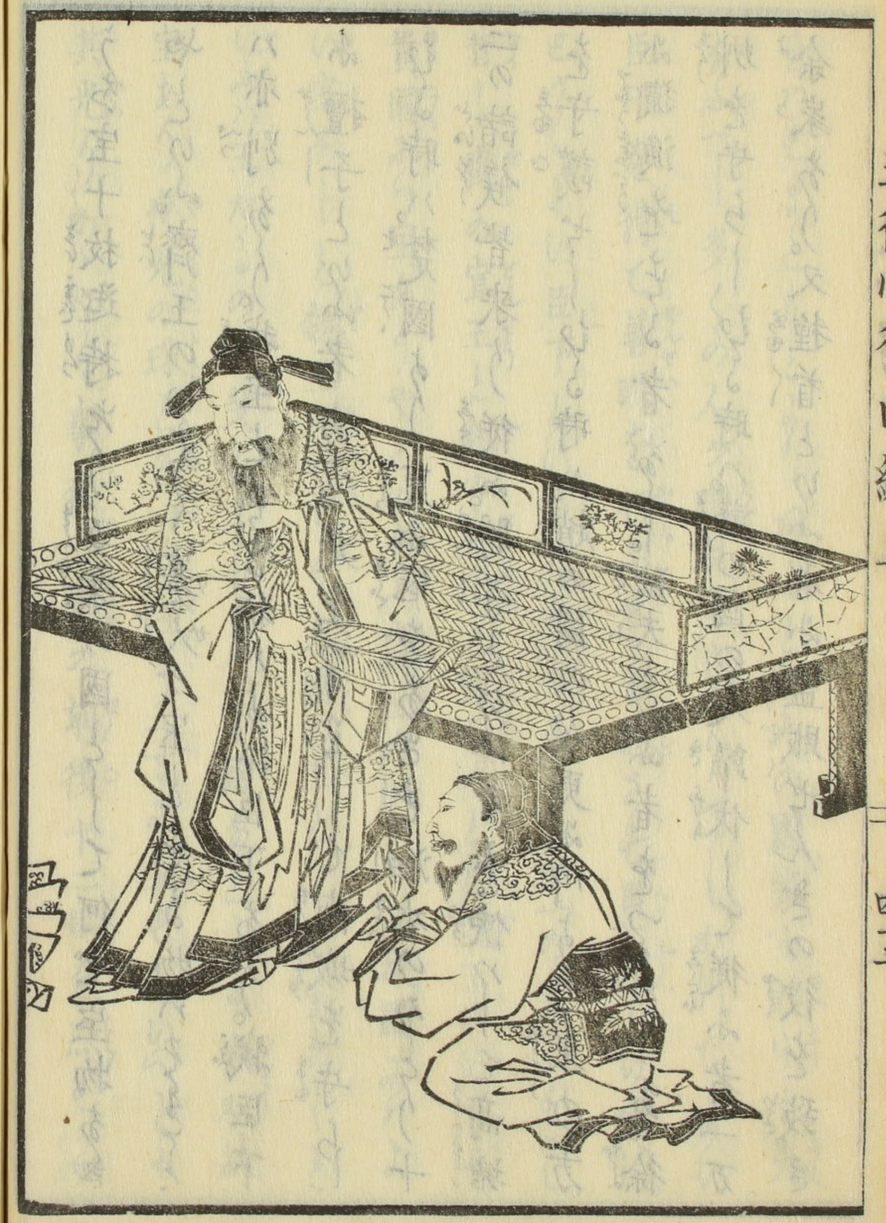
民ふハあさけをうけたるものあり。是を仁者といふ一切
德の本也。さもべ心を盡して万民をあちまむべし。五穀ハ
勿論草木朝顔の類迫もよく養ひて。その功を遂させ。
人の称美を受させ。日月の草木國土を照しめふおとくふ
國の益をおもべし。万物の長たる人間の役也。人君たる
者ハ。此事をよくおもべ。

○孟子のいはく諸候の宝三ツ土地人民政事。珠玉を宝
とする者ハ殃ひ必ず其身ふ及ぶと。注ふ土地ハ國土也。人
民ハ土地を守り。土地より五穀等を作り出す者あり。
政事ハ土地人民を治むる所の者也。是を諸候の三宝と

りふ。若珠玉を宝とする者ハ殃ひ其身ふ及びて國家を失
ふとあり。土地人民を治むる所の政事ハよき人であく
てハ出来ずと。こもふよりてよい臣下ず大入用あり。よ
き臣下おき時ハ。一國一郡も守る事あさいず。よき臣下あ
もべ國家人民よく治まりて富貴繁昌あり。よき臣下も
世界第一の宝あり。よき人あもべ一切の財宝一切の五穀ハ
よき人ふ附物あり。趙氏連城の玉よりも何の宝より
も。よい臣下ハ万〜きものあり。よい臣下さへあもべ五
穀財宝ももとうあり。唯宝物ばかりをわしがつて。善
政善事を行おもべ。五こくも財宝も天より授れ

西ハ也。まことにとよりなるところの國家も財宝も失
あふべし。多くの人ゞ唯財宝ぞうほしがりて。よい
臣下を得て善政を行ふ事を致さぞ。愚鈍といふべし。
とうくよい臣下よいけんぞく是を第一の宝とまべし。
昔し齊の宣王と魏の惠王と對面のとき魏王のいはく。
貴國ハ宝ありやとのゝふ。齊王のいはく。我國ハよ
い宝ありと。魏王のいはく大國の王として宝ありと
いふハ王たるの甲斐あり。我ハ小國なれども無双の
宝あり、夜光の珠と名づく。徑り一寸ふ盈ぞといへども
其光りあぶやく事。夜る車の前後十二輌を照さ

うふ宝十枚迄持たり。万乗の國として何ぞ宝物なき
やといふ。齊王のいはく寡人ゞ宝とまる物ハそなへて
ハ亦別あり。我宝とまる物ハよい臣下あり。我臣下
ふ檀子といふ者あり。是をつかはして南城を守らし
むる時ハ。楚國ハ更ふ冠をあさぞ。泗水のほとり十
二の諸侯皆来り従ふ。盼子といふ者を使ひて高塘
を守護せしむる時ハ。趙の國の人更ふ川より東の方
ふ漁猟をとる者あり。黔夫といふ者をつかはして徐
州を守らしむる時ハ。燕の國の人帰伏して従ふ者一万
余家あり。又種首といふ者ふ盗賊ぜんぎの役を致さ



衛のいとう鶴ゐ錦の下衣を
きせて群臣の上ゐ置こそう
あいしゝゐ故ゐ後ゐいくさ
おこりても群臣たゝかりとず
ゐてゐろびゐゐ

注疑心得四編止

せおくときハ。更ふ民を犯ス事あし。道ふ落たるものをひろいぞ。國中よく治まりて安泰あり。吾ハ名臣を以て四方千里の外を照さんと欲ス。あんぞ十二輌の車のミあらんやといひ給へバ。魏王こゝを聞て大いふ耻不奥ふしてめへると韓氏外傳ふ云へり。魏王ハ珠玉を宝とする人あるバ頓てゆゆふる人あり。又齊王ハ土地人民政事を宝とする人あるバ。是國家繁昌の人也。趙氏連城の玉。夜光の玉ありもよい臣下がゆしき者也。よい臣下さへあるバ。國中ハ勿論。天下中を明らふ照して。一切の人民を泰山の安きふわき。一切の財宝

へよい人ふ付て涌出るあり。よき臣下あきとゝきて。國を守り。関所を堅め。盗賊悪徒を防ぐとあり がゝし。爾もバ國家ハ滅亡あり。よい臣下ゆる時ハ國ふ悪徒盗賊あり。國家ハ富貴安泰あり。鬼角入用あるとよい臣下なり。よい臣下あけるバ天下の明君とハ ありがゝし。是ふよつてよい臣下を第一の宝とまべし。孟子のいをく。仁賢を信ぜざるバ國空虚也と是ふ相違あし。仁賢を用ひざる時ハ。國家ハゆゆふる筈あり。常体並々の臣下を用ひざゝて國家身命をもふ亡びたる君あり

○むゝ衛の懿公ハ常ふ鶴ふ長ト栄曜のあり

み。鶴を愛し。金の冠をうぶせ錦の袍をきせ。官位あり
たゝへ鶴大夫と称し。懿公城外へ出る時ハ。鶴を輿車ゟ
乗て往来し。其費へ幾許とりのかぎりなし。忠臣是
を諫言もせども。懿公あゆ用ひ給ハぬ後ゟ犬戎
國より衛の國をせめたりし時。懿公の為ゟ忠義を
尽し合戦もする者一人もなし。皆悉く逃散たり。懿
公左右ゟ命じて戦ハしめんともせども。左右皆詞を揃
へていはく。君平日鶴を愛して鶴大夫と称して我く
ゟ上ゟ置ゟ。此鶴大夫ゟ仰付られて戦ハせ給へとい
ひて。皆々懿公を棄て逃さりけるゝ。懿公ハ犬戎夷賊の

為ゟ亡ぼさるゝ。その身ハもとゟ切らるゝ。心膽地ゟ落ち
て死しけるとなん。是畜類を愛して。臣下を愛せ
ざるゟ依てなり。万物の長たる人を用ひずして。畜類
のゝめゟ物をのゝ。臣下共の上ゟあきたる故ゟ。忠をつ
くして主人の死を救ふ臣下一人もなし。又鶴ゟ物をい
もて費多き故ゟ。百姓町人より年貢運上を多くと
り。万民の心を失ひし故ゟ。畜生同前の犬戎の手ゟ
ゟり死もするとか。自業自得のゟを所なり。仁義忠信
の人ハ世界第一の宝とりゟ事をもつぐる人也。又ゟ
くの臣下たりとも大切の人なり。まさるの時ゟ。君

の身命ふうそる人也。鶴や畜類あゝどの下ふあゝ愛きものふあらむ。常ふ仁愛を以て臣下を大切ふ致し。我身と一体と思ふべし。ちうるふ鶴の下ふ置て忠臣義士を盧末ふもるゝ。臣下ハ家の宝といふ事をちうぎる人あり。武士の風上ふも置べらむ。國を乱るの悪人といふべし。不仁ふして高位ふあるゝ。是其悪を衆ふ播もとハこも等の人をいふあるべし

○又我朝ふ畜類を愛して人を盧末ふもるる君ふ。何様の珍禽奇獣珍器珍物でも。人ふゝへて愛もるる君一人もあり。唯人を愛もるる君だうあるべ。我朝を君子國

といふあり。雑聚録ふいもく。紀州家ふ肩付の茶入として天下ふ三ツの名器あり。是ハ紀州家の御先祖へ神君様より進せらるし。御大切の什宝あり。ちうるふ虫干の節。安藤度四郎酒臭の上。其茶入を拝見もるゝて不圖取落して打割とり。是ハ御家第一の名器あり。是ハいかゞせんと安藤帯刀候。三浦長門守殿へ談ド致ひけるゝ長門守殿仰せふい。先主君へ御聞ふ達し。その上あて取計らひゆうらんと先主君へ御聞ふ達しい處。大守聞し召もくゞけたるうけありやとのふ。其くゞけを連續して御座候と申上けるゝ。うるし。あてつぎ

合せて置べしと許りのみふて外ふ御こゝぞおし。長門守彦四郎儀ハ如何の咎ふ御せ自らるべきやと申上けまゝバ。笑ひたゝせたまひ。茶入ハ天下ふ三ツの名器ふまゝ。戰場ふ望て真先ふ持出天下ふ三ツの名器也。早くおそまって引退け。降参せるものといふ共。敵少しも恐るゝこと。又彦四郎ハ今不調法あり共。戰場ふて一廣の敵を追拂ひ。大用ふ立者ありと宣ひて曽て御咎めなし。誠の賢者と称まべし。君の臣を愛しふ事深けまゝバ。臣も又君ふ忠義を尽まと厚し。主君たる人ハ臣下を大切ふまべし。まさうの時ふハ主人の御命ふもかゝる者まゝまゝバ。無示ふまべきいたまゝあし。君ハ朋友兄弟と思し召て。常ふいろ〳〵人の使ひまふべし。鶏や名器ふハうへゝし。御家ハ臣下衆あるふよりて。國もよく治まり用事もよく整ひて御家も御繁昌也。主君御一人ふてハ大家ハ治まり難し。主人ハ家来を盛末ふまべうゝ。家来を盛末ふまるハ我身を盛末ふまる道理あり。是も一ツ考へ置ふべし。又家来たる者ハ。主人の仁不仁あるを方のかゝふまうまたまゝと。唯何處が何國まであでも忠義を盡まべし。人ハ主ふ忠義と親ふ孝行とさへあまゝ大上々の人あり。佛神の守護ありて始終のゝき事あし。天地の間ふ。主人ふ

忠義を盡し。親に孝行をるるものこの大善いあり。大善ゆえ
大福徳が付物あり。一切の人此儀をよく考へ

四編上終